

第2学年西組 生活科学習指導案

学習指導者 濟城 智哉(T1)・造田 朋子(T2)

1 単元名 「幼稚園の友達とおもちゃをつかって遊ぼう」

2 単元について

(1) 目指す子供の姿

【互いに磨き合い、学び続ける子供の姿】

幼稚園の友達とおもちゃで楽しく遊ぶために、遊びや幼稚園の友達を自分との関わりで見つめ、遊びや遊びに使う物、その伝え方について学級の友達と話し合い、工夫していく。さらに幼稚園の友達と交流することを通して、工夫したことを深める。そして、活動を続ける中で、さらに遊びや遊びに使う物、その伝え方の工夫について考え続けている。

知識・技能の基礎

身近にある物や自然を利用して遊ぶ活動において、その面白さや不思議さに気付くとともに、幼稚園の友達と関わるよさや楽しさが分かる。

学びに向かう力・人間性等

幼稚園の友達と進んで交流しながら、自分と幼稚園の友達などのつながりを大切にしながら、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

思考力・判断力・表現力等の基礎

遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その遊び方や作り方が相手に分かるように、伝えたいことや伝え方を選ぶ。

子供たちは、来年度入学する幼稚園の友達（青組さん）と4月から交流を続けてきた。本単元では、青組さんをおもちゃ祭りに招待したり、青組さんと一緒におもちゃを作ったりして楽しく遊ぶという目的意識をもって活動を行う。まず、幼稚園の友達と一緒に遊ぶために自分が作るおもちゃを決める。その際、1年生の時に招待されたおもちゃ祭りでの経験を想起し、例えば、「釣り竿の先についた磁石で、魚が釣れるおもちゃが楽しかったね。作って青組さんと遊んでみたいな」という思いや願いを基に、おもちゃ祭りに向けて、おもちゃを作って遊ぶ。その中で子供たちは、「大きな池を作って、その中の魚を釣るようにすると、もっと楽しくなるかな」「紙だけでなく、箱やカップを使って魚を作ると、いろいろな魚を釣ることができるようになって、おもしろそうだね」などと、自分のおもちゃや遊びを見直し、様々に工夫していこう。そして、おもちゃ祭りに青組さんを招待して一緒に活動した子供たちは、「もっと青組さんと楽しく遊ぶには、どうするといいかな」などと、幼稚園の友達と自分の関わりについて考えていこう。そのような課題をもった子供たちは、これまでのおもちゃ作りや幼稚園の友達との交流での経験を生かしながら、遊びや遊びに使う物を考えたり、どのように幼稚園の友達に伝えたらよいかを考えたりしていく。例えば、「青組の〇〇さんと、魚釣りに使う魚を作るよ。色や模様をつけたり、大きさを変えたりできることを、見本を見せながら伝えよう」「一緒に遊びながら伝えるのもいいかもしれないね」などと、楽しく遊べる自分たちのおもちゃを作ったり、伝えたり、遊んだりする中で、自分が工夫しようとしていたことがさらに深まっていくと考える。そのような活動を続け、振り返る中で、「一緒に遊んでからおもちゃの作り方や遊び方を伝えると、青組の〇〇さんにうまく伝わったよ。もっと青組さんと楽しく作ったり、遊んだりしたいな」などという次の問題の解決に向けて、遊びや幼稚園の友達に対する自分の関わりを見つめながら、さらに遊びや遊びに使う物、その伝え方の工夫を考え続けていく姿を目指したい。

(2) 子供の実態

メタ認知に関わる実態調査から友達と協働することについては、よさを感じている子供が多く見られる一方、相手に分かりやすく話をするに対して苦手意識をもっている子供は、35名中14名いることが明らかになっている。また、教科の特性に関わる実態調査から、おもちゃの楽しさを伝えることについては、13名の子供が「楽しいところを話して伝える」など、言葉のみで伝えようとしていることも分かった。さらに、年下の友達との関わり方については、7名の子供が消極的である。

(3) メタ認知を促す働きかけ

① 課題解決中

自己の課題やよい工夫の仕方を確認する時間を位置付ける。その際、成功経験や課題を想起しやすいよう、前時までの活動の様子が分かる写真の提示や教師による例示を行う。また、自分の伝え方で伝わったかどうか、相手の反応から確認し振り返るようにする。そうすることで、例えば、「おもちゃ作りの時、青組さんは話を聞いてくれなかったな。だから、〇〇さんのように、遊んでみてから伝えてみよう」「この伝え方では伝わっていないね。次は〇〇の工夫をして伝えよう」と、自分の伝え方を見直しながら、よりよい伝え方などについて再考できると考える。【なかよしタイム】(3・6～14時間目)

② 課題解決後

課題解決後には、まず、幼稚園の友達にインタビューし、活動しての感想を聞く。その後、「活動してよかったこと」「なかよしタイムでできたこと」の観点から、振り返りを行う。全体交流の際には、振り返った内容の理由を問うことで、「青組の〇〇さんが楽しいと言ってくれたのは、私が一緒におもちゃを作って遊んだからだ」などと、自分の関わりのよさに気付かせ、「もっと楽しく遊べるよう、青組の〇〇さんと、また一緒に作りたい」と、協働していきたいという意欲を高められるようにする。【キラキラタイム】(3・6～15時間目)

3 単元計画(総時数 15時間)

単元前半では、幼稚園の友達に楽しく遊んでもらうためのおもちゃ祭りを設定し、それに向けて自分のおもちゃを製作し、遊び、工夫していく。単元後半では、幼稚園の友達が作りたいおもちゃの製作がうまくできるよう、おもちゃの作り方を伝え、一緒に楽しく遊ぶ時間を設定し、幼稚園の友達への関わり方を工夫することができる単元構成にしている。

学習の流れ及び主な子供の意識

①～③ おもちゃ祭りで、青組さんと一緒に遊ぶおもちゃを決めよう

1年生の時におもちゃ祭りに招待されて楽しく遊んだ経験を想起し、交流を続けている幼稚園の友達を招待して、一緒に遊ぶためにおもちゃ祭りをひらくことを確認する。そして、おもちゃ祭りの計画を立て、幼稚園の友達と遊ぶためのおもちゃを決める。その後、おもちゃの作り方や材料について調べる時間を確保し、おもちゃ作りへの見通しがもてるようにする。

④～⑥ おもちゃ祭りに向けて、おもちゃを作って、遊ぼう

自分のおもちゃを作り、遊ぶ。その後、前時の「青組さん、みんなに楽しんでもらいたい」という子供の思いや願いから、おもちゃの工夫について話し合う。その際、自分のおもちゃ作りに生かせるよう、材料や材質などの工夫の視点を整理し、共有できるようにしておく。そして、自分の理想とするおもちゃや遊びになるように工夫の仕方を考えていく。

⑦⑧ おもちゃ祭りをひらく準備をしよう

おもちゃ祭りの活動の流れや場所を確認したり、おもちゃ祭りに必要な物を準備したりする。

⑨ 青組さんをおもちゃ祭りに招待して、楽しく遊ぼう

幼稚園の友達をおもちゃ祭りに招待して、一緒に遊ぶ。その後、幼稚園の友達と活動の振り返りを行う中で、表出するであろう「おもちゃを作りたい」「もっと、おもちゃで遊びたいな」という幼稚園の友達の思いや願いを実現するために、一緒におもちゃを作って、遊ぶという課題を設定する。

⑩～⑫ 青組さんが作りたいおもちゃ作りができる準備をしよう

幼稚園の友達で作りたいおもちゃを知り、一緒に作って遊ぶ計画を立てる。おもちゃ作りに必要な材料と道具の準備や作って遊ぶ場の確認、幼稚園の友達への伝え方の工夫について、話し合う。

⑬⑭ 青組さんの作りたいおもちゃで、一緒に楽しく遊ぼう

(本時13/15)

幼稚園の友達で作りたいおもちゃの作り方を伝え、作って遊ぶ。

⑮ 青組さんとおもちゃを作って、遊んだ感想をかこう

幼稚園の友達と一緒におもちゃを作って、遊んだ活動を振り返り、感想にかいて、交流する。

4 本時の学習指導

(1) 目標

幼稚園の友達と一緒に楽しく遊ぶために、おもちゃの作り方や遊び方を幼稚園の友達に分かりやすく伝え、遊ぶ物、遊び方、伝え方を工夫することができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	主な子供の意識
<p>1 学習課題を確認する。</p> <p>課題設定以前</p>	<p>青組さんが作りたいおもちゃを作ることができるよう、材料や道具はそろっているよ。</p> <p>青組さんが作ったおもちゃと、自分のおもちゃで競争すると、楽しそうだね。</p> <p>今日は、おもちゃを作って、青組さんと楽しく遊べるかな。</p> <p style="text-align: center;">青組さんの作りたいおもちゃで、一緒に楽しく遊ぼう</p>
<p>2 幼稚園の友達と楽しく遊ぶコツについて話し合う。</p> <p>【なかよしタイム】</p>	<p>青組さんと、一緒に楽しく遊ぶコツがあったね。</p> <p>おもちゃ作りに使う物を変えてみる。</p> <p>分かりやすい伝え方で伝える。</p> <p>いろいろと遊び方を試してみる。</p> <p>おもちゃがうまく作れない時は、そのままにするのではなく、おもちゃに使う物や伝え方を変えるといいね。</p> <p>できたおもちゃを飛ばしたり、的に当てたりするなど、遊び方をもって楽しくなるね。</p> <p>テープでつかない時は、グルーガンがあることを伝えよう。</p> <p>伝わるまでは、何回もやって見せたり、指したりしよう。</p> <p>飛んだ長さや高さ、的に当たった数で勝負しよう。</p> <p>いろいろ工夫ができそうだな。〇〇さんの方法でやってみたいな。</p> <p>早く青組さんにおもちゃの作り方を伝えて、楽しく遊びたいな。</p> <p>青組さんが教室に到着したね。うまく伝えたいな。</p> <p>車とタイヤは、同じもので作るよ。うまくできるかな。</p> <p>どのように作るか、指さしたりやってみよう。</p> <p>的の数を増やすと楽しく遊べるかな。やってみよう。</p> <p>青組さんは車に羽をつけているね。</p> <p>やってみせても青組さんには難しいね。</p> <p>青組さんが作る的はいろいろあるね。</p> <p>僕も同じように羽をつけてみよう。</p> <p>一緒に作ると青組さんもできたよ。</p> <p>的は、いろいろな大きさを形にしよう。</p>
<p>4 本時の振り返りを行い、友達と活動してよかったことを発表する。</p> <p>【キラキラタイム】</p> <p>課題解決後</p>	<p>今日、青組さんが楽しく遊べたかを聞いてみたいな。</p> <p>青組さんも楽しく遊べたと言っているよ。友達と活動して、よかったことも振り返ろう。</p> <p>クラスの〇〇さんがやっている遊び方をすると、青組さんと一緒に楽しく遊べたよ。</p> <p>楽しく遊ぶコツを見ながら考えると、楽しく遊べるような工夫がもっとできそうだよ。</p> <p>おもちゃを工夫して、青組さんともっと楽しく遊びたいな。</p>

提
案
授
業
一
日
目
指
導
案

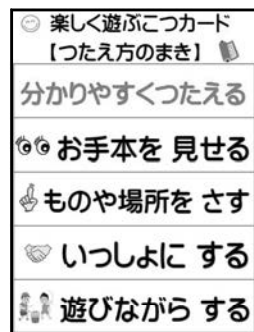
(3) 授業の詳細

前時までの子供の意識 学習活動 1

前時の活動で子供たちは、幼稚園の友達がおもちゃを作りたい「もっと、おもちゃで遊びたい」という思いや願いの実現に向け、幼稚園の友達を作りたいおもちゃ作りの準備をしている。本時の始めに、子供たちが「青組さんの作りたいおもちゃを作って、楽しく遊びたい」という思いや願いを表出した後、学習課題を確認する。

学習活動 2

本時において生活科専科教員（T1）は、主に全体指導を行い、幼稚園の友達の立場から助言する。学級担任（T2）は、幼稚園の友達との関わりに困っている子供に寄り添うようにする。まず、幼稚園の友達と一緒に楽しく遊ぶために前時までに共通理解しておいた楽しく遊ぶコツ（物を変える、分かりやすく伝える、いろいろと遊び方を試す）について話し合う。その際、前時までの活動でうまくいかなかった場面を取り上げ、T2は2年生役として、幼稚園の友達役のT1に、おもちゃの作り方や遊び方を伝えるが、うまくできず、修正が必要な例を示す。そして、拡大した楽しく遊ぶコツカードを提示したり、前時の活動がうまくできた友達の考えを聞く場を設けたりし、どこを修正したらよいか、考えられるようにする。そうすることで、例えば、「うまく伝わっていない時に、自分はそのままだにしていたけれど、クラスの〇〇さんのように、遊びながら伝えるとよさそうだな」などと、幼稚園の友達に伝える際にどう工夫できるか、自分と教師の例示、自分と友達との関わり方を比べて考えることで、具体的に理解できると考える。【なかよしタイム】



学習活動 3

一緒に楽しく遊ぶコツについて話し合った子供たちが、幼稚園の友達を作りたいと言っていたおもちゃの作り方や遊び方を伝え、作り、遊ぶ場を設定する。おもちゃの作り方を幼稚園の友達に伝える中で、例えば、「車はペットボトル、タイヤはキャップに穴を開けて作るよ。分かったかな」などと、幼稚園の友達に伝わったかを確認する。【なかよしタイム】そうすることで、「おもちゃの作り方を言うだけでは伝わらないんだな。そうしたら作りながら伝えよう」などと、楽しく遊ぶコツを基に、自分の伝え方を見直していこう。その後、幼稚園の友達と一緒に遊ぶおもちゃを工夫していく。その中で、例えば、「青組さんは車に羽をつけているよ。おもしろい工夫だね。青組さんのように羽をつけると速く走るようになるかな」「車を走らせて速さで勝負するのもいいけれど、ゴールを狙って車を走らせて止める勝負も楽しいよ」などと、幼稚園の友達と一緒に遊ぶ中で、さらに工夫できることに気付いていく。そのような活動を繰り返す中で、おもちゃの作り方や遊び方、自分の伝え方のよさや課題に気付いていくと考える。話しかけることが苦手な子供に対して、T1がT2や幼稚園教員と連携しながら、幼稚園の友達に伝えた内容が分かったかを子供と一緒に尋ねるようにする。

学習活動 4

まず、子供たちは、ペアの幼稚園の友達に、「今日、一緒に遊んで楽しかったか」についてインタビューする。ここで、表出が難しい場合には、幼稚園教員が支援を行う。その後、「今日、活動してよかったこと」「なかよしタイムで分かったこと」の観点から発表するよう助言する。【キラキラタイム】全体交流の中から、「青組の〇〇さんがしていたように、釣り竿に使う磁石を変えると、大きい魚が釣れて楽しかったよ」「クラスの〇〇さんのように伝え方を工夫して遊ぶと楽しく遊べたよ」などを取り上げ、よい関わり方ができていたことを教師が見取った活動の様子とつないで称賛する。そうすることで、自分の関わりのよさに気付かせるとともに、「もっと楽しく遊べるよう、青組の〇〇さんと、また一緒に工夫しておもちゃを作りたい」という協働への意欲を高めることができるだろう。

(4) 評価

幼稚園の友達と一緒に楽しく遊ぼうと、「物を変える」「いろいろと遊び方を試す」「分かりやすく伝える」の視点を生かしながら、一緒に遊ぶ活動を繰り返している。 【方法：発言・活動の様子】